

# 横浜市医学部長来る!



日本では2007年に65歳以上の高齢者の全人口に対する割合(高齢化率)が21%を超え、超高齢社会となり、2010年には世界一の高齢社会となりました。少子化と高齢化により病院を訪れる患者さんの病気の種類も以前と大きく変わり、加齢に伴う病気を治療する機会が増加しました。いわゆる急性期医療から慢性期医療への移行です。

整形外科が治療する運動器は骨、関節、神経、筋肉から構成される器官で、内臓を保護し、姿勢を直立に保ち、人間らしく生きるための二足歩行を可能にします。また運動器は体幹や四肢による喜びや悲しみを表現する手段にも用いられます。

運動器は加齢に伴って変化し、残念なことに様々な病気をきたします。膝や腰が痛い、歩くのがつらい、階段の昇降ができないなどを訴える高齢の患者さんはたくさんいます。高齢の方々の膝の病気で変形性膝関節症がありますが、現在2500万人の方が罹患しており、その内の痛みのある患者さんの数は800万人とされています。このような患者さんや骨折した患者さんの治療を整形外科医が行います。患者数が多く、治療する範囲が広いことも整形外科の特徴の一つです。整形外科手術は機能再建が目的です。歩けない患者さんが手術後歩けるようになり、日常生活の質を向上させることは外科医の醍醐味です。

皆さんの中にも将来医師を志す方も多いと思います。現在、日本中の医学部はカリキュラム改革の真っただ中で、国際基準に合うように臨床実習期間が長くなり、知識ばかりでなく診療技能もしっかり学ぶことが求められています。勉強は大変ですが、それだけ国民の方々の期待が大きいということです。医学部を希望されている方には、ぜひ将来の日本の医療を担っていただくことを期待します。

■プロフィール

1979年 横浜市立大学医学部卒業  
 1989年 フィンランド・ヘルシンキ大学留学  
 1991年 アメリカ・ケースウエスタン・リザーブ大学留学  
 その後、横浜市立大学医学部講師、助教授を経て2002年より教授。  
 日本整形外科学会、日本関節病学会、日本リウマチ学会などの学会役員を務める。  
 専門は整形外科、特にリウマチ、脊椎疾患。

10月10日(土)14:00-15:30  
 横浜校本館 3N教室

入場無料  
 申込不要

〒220-0005 横浜市西区南幸 2-11-9  
 ☎ 0120-192-149  
 JR 東急東横線・京急線・相鉄線・みなとみらい線・横浜  
 市営地下鉄 / 横浜駅下車徒歩5分

※どなたでも自由に参加できます。

## 超高齢社会の医療 整形外科医の役割

● 講演 .. 齋藤 知行(横浜市立大学医学部長)  
 ● 司会 .. 森永 和英(小論文教科講師)

